

## 11月のことば

### 教え⑤ ～「感化」「風化」

「秋の夕日に照る山紅葉。」色ある四季の最後を締め括るのは“朱”。  
 「朱に交われば赤くなる。」とは、人は関わる相手や環境によって、良くも悪くもなるということ。

狼に育てられた子は狼であったように、人は必ず他の人を手本として人と成っていく。人が教えを受ける場は三つ。

#### 1、家庭教育

親が先生。親が後ろ姿を見せ、理屈なしに良い手本を示し自然に教えていく。  
 理屈が入らない方が良い。

#### 2、学校教育

言葉によって理論を教えていく。生活は本来家庭で教えるもの。

#### 3、社会教育

ある社会に入ると自然にいつの間にか感化されていることが「風化」。  
 会社も学校も良い社風や校風にしておくと、業績・学業ともに進捗する。

社会・学校・家庭が良い環境のもとでこそ、子どもは正しい心となり、能力を開花する。社会をいい雰囲気<sup>しんちよく</sup>に風化させる方法も三つ。

#### 一、謙虚であること

不足を言うのではなく、足るを知る<sup>た</sup>ことと、物事への気付きがあつてこそ、感謝の心が生じ謙虚となる。謙虚な人間関係は風化に至る。

#### 二、同志づくり

人の道を体得した人は、道を志している人に出会えば、こちらも道をもって接する。そこで同志を得た喜びが生まれる。その楽しさが風化に至る。

#### 三、道のない者への感化

本来「風化」とは、水滴が長い時間をかけて岩に穴を穿ち、やがて破壊し砂粒にすることである。眼前の一人を（理論だけではなく）、大人として感化していく事によって全体が、穏やかで心静かな心境となる。

「人生の教え」は、TV やスマートフォンにはなし。だから、日本の現状は生活の中の些細な<sup>ささい</sup>ことでも右往左往する始末。これ稚拙<sup>ちせつ</sup>な若者社会の如し。

少子高齢化。これからは人の道を体得した賢い高齢者が社会を風化し、賢い子どもを育む国風とする必要あり。

〔 「稚拙」… 経験が少なく、未完成な点が目につくこと。  
 「高齢者」…現在の 20～50 歳代の将来像のこと。 〕